

新しい技術

第59集

令和4年3月

鳥取県農林水産部

目 次

ページ

I 普及に移す新しい技術

【農業試験場】

- 1 水田転換畑における排水対策診断フローチャートの作成 1

【園芸試験場】

- 1 ハウス秋冬出荷シンテッポウユリの夏期降温ハウス管理法 10

II 新しい品種・種畜

【畜産試験場】

- 1 飼料作物奨励品種選定試験 15
- 2 鳥取県有種雄牛‘大山雲’ 17
- 3 鳥取県有種雄牛‘美国白清’ 19

III 参考となる情報・成果

【農業試験場】

- 1 高地力ほ場における‘きぬむすめ’の食味・収量の高位安定化を目指した
葉色診断による穂肥Ⅱ施用法 21
- 2 イネごま葉枯病常発地における鉄資材施用効果 23
- 3 夏まきニンジンの有機栽培における太陽熱を利用した雑草対策の実用性 26
- 4 ラッキョウ有機栽培における簡易除草具を利用した除草作業の省力化 28
- 5 ピメトロジンを含む新規育苗箱施用剤（は種時覆土前処理）のウンカ類に対する
防除効果およびイネ縞葉枯病の発病抑制効果 30
- 6 水田転作野菜における「排水対策診断フローチャート」にもとづいた排水対策の効果 32

【園芸試験場】

- 1 ナシ中間管理ほ場における樹体管理 34
- 2 エテホン液剤処理による‘新興’輸出用穂木の花芽着生率向上 36
- 3 維管束の異常が‘新甘泉’の変形硬化症状の発生に及ぼす影響 38
- 4 ナシ黒星病に対するジチアノン水和剤とマシン油乳剤の混用散布の効果（休眠期） 40

5	ナシ輪紋病に対する‘新甘泉’の果実感受性	42
6	ネギに薬害の出にくい除草剤の選定と雑草繁茂時の除草剤混用散布	44
7	ネギ黒腐菌核病の被害残渣処理方法の検討	46
8	砂畑白ネギ栽培における除草剤「ロロックス」の活用方法	49
9	鳥取県内の準高冷地における夏秋どり白ネギの適品種‘源翠’	51
10	クワコナカイガラムシ及びニセナシサビダニの休眠期防除法	53
11	高温期におけるハウス栽培スイカの遮光方法	55
12	追肥前倒による‘ねばりっ娘’の品質向上	58
13	トマト青枯病耐病性台木品種の耐病性比較	60
14	ストックの開花予測技術	62
15	2日前収穫に向けたストック（スタンダード系）の品質保持法について	65

【中小家畜試験場】

1	畜産廃水の窒素低減処理技術の開発	69
---	------------------	----

【林業試験場】

1	スギの伐り時期を探る～応力波を使った長期観測～	72
2	センダン種子の発芽特性	74

I 普及に移す新しい技術

農業試験場

水田転換畑における排水対策診断フローチャートの作成

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

近年の米価低迷により、水稲のみの経営で収益を確保する事は困難となってきており、複数品目による水田経営の多角化が進行中である。しかしながら、水田転換畑では排水不良などにより生産が不安定となることが問題となっている。水田転作野菜栽培において経営を安定させるためには、適切な排水対策を実施することが必要となるが、排水不良要因はほ場毎に様々であり、必要な対策も異なってくる。

そこで、ほ場毎に必要な排水対策を判断できる、排水対策診断フローチャートを作成した。

(2) 技術の要約

経験の浅い指導者や農業者が、ほ場毎に必要な排水対策を判断できる排水対策診断フローチャートを作成した。

2 試験成果の概要

(1) 排水不良要因を、①ほ場外への排水性に問題がある ②ほ場内への流入がある ③地下浸透に問題がある といった3つに大別し、それぞれの診断ポイントについて順を追って診断できるように作成している（図1）。

(2) これまでに農業試験場が作成・公表している技術マニュアルについて、排水対策に関連するものを含めて作成している。

(3) 農業者の利用も考慮し、診断自体は専門的な器具を可能な限り使わずに行えるように作成しており、指導者から農業者まで広く利用できる。

3 普及の対象及び注意事項

(1) 普及の対象

県内全域の水田転換畑。本フローチャートの内容については必要に応じて随時改訂していくこととしている。

(2) 本フローチャートは、ほ場サイズにおける適応範囲は設けていないが、余剰水のほ場内滞留時間が長くなるほ場（大区画ほ場や排水口までの距離が遠い部分が多いほ場）においては、本暗渠の施工が望ましい。

(3) 一部、県および農業試験場HPに掲載されていないマニュアル・手引きを含めているので、必要な場合は農業試験場に問い合わせを行うこと。

診断フローチャート（簡易版）

→ YES → NO

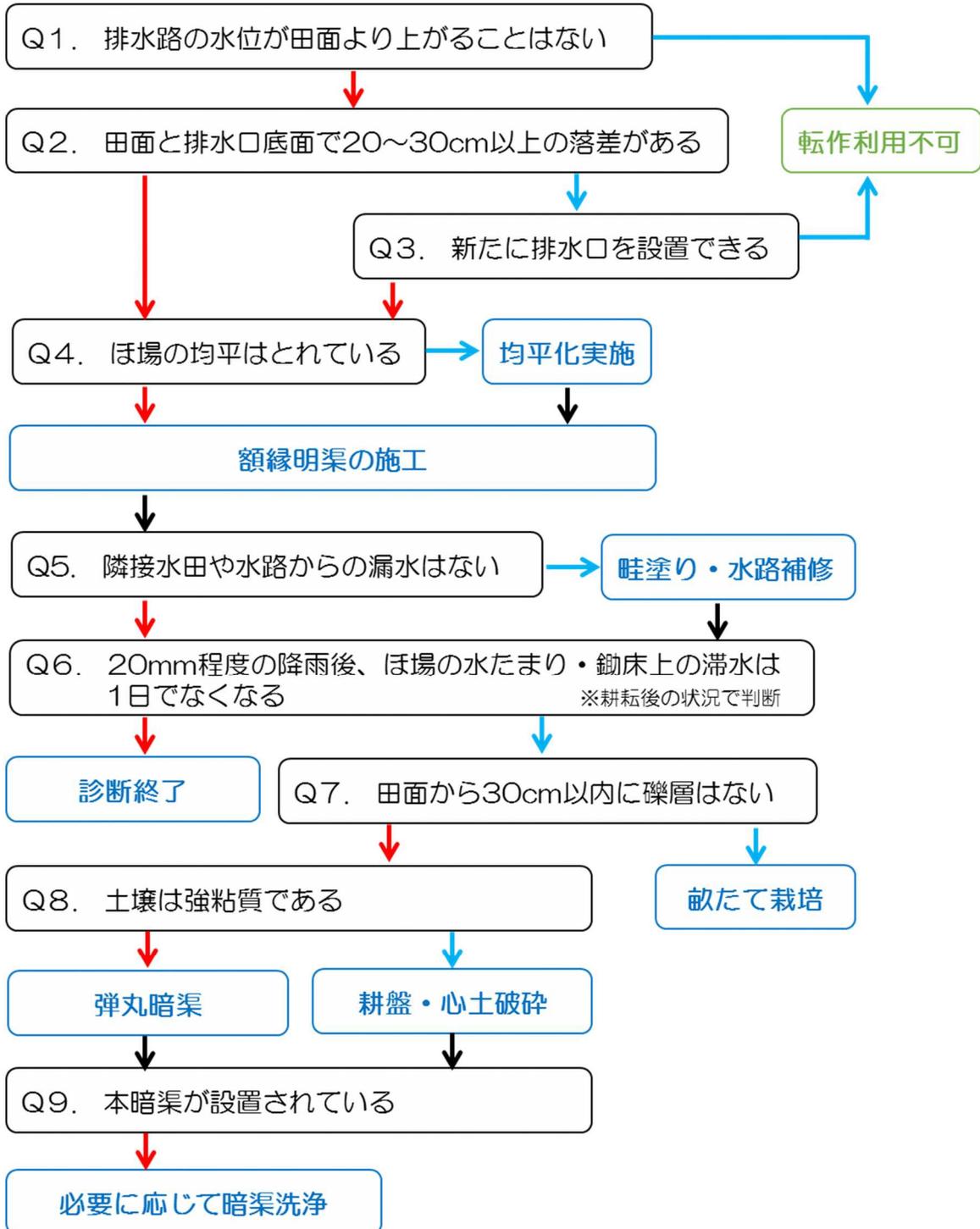
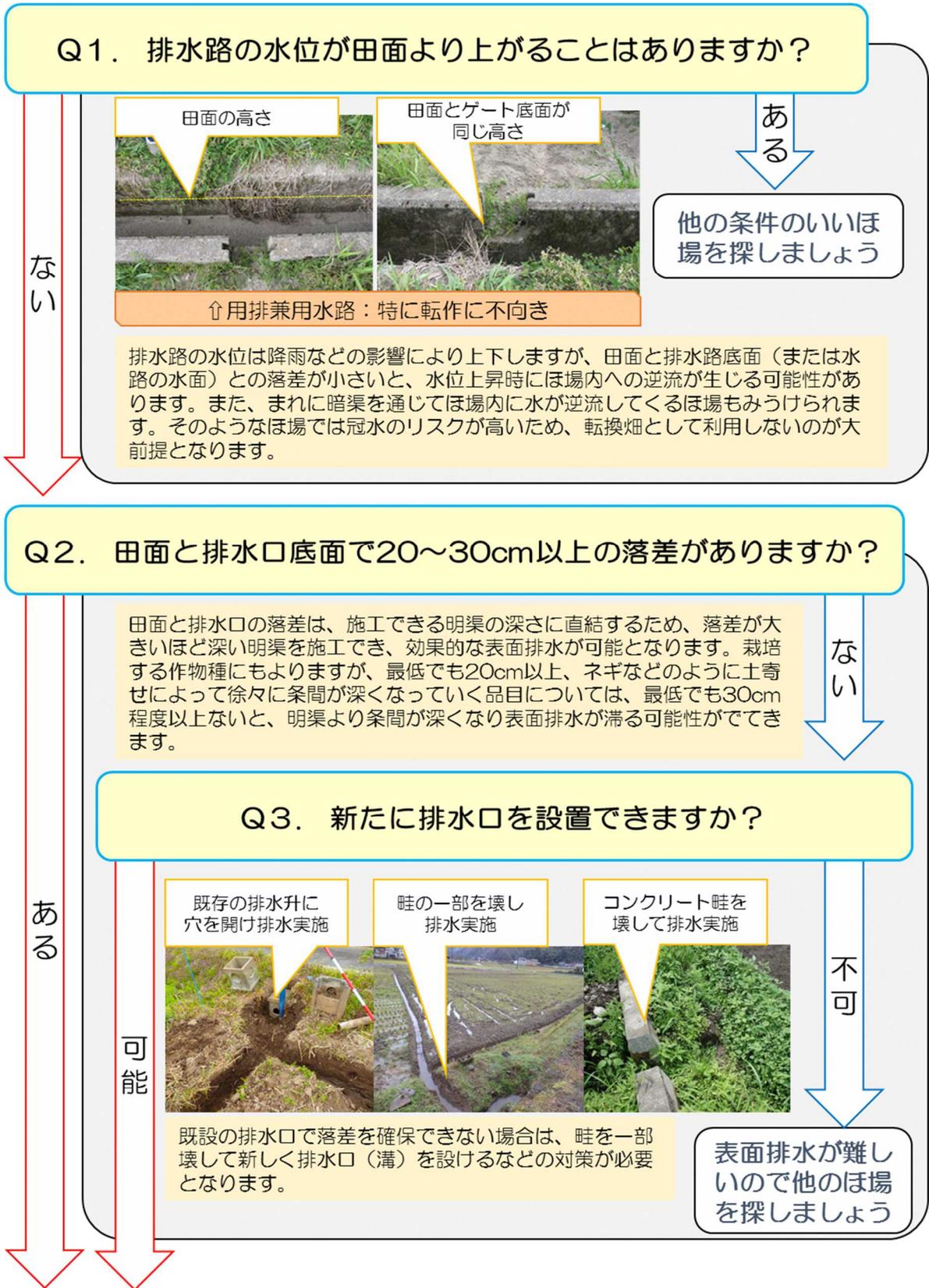


図1 排水対策診断フローチャート（簡易版）



Q4へ進んでください

Q4. ほ場の均平はとれていますか？

ほ場の均平がとれていないと、スポット的に過湿な部分ができる原因になるほか、溝掘り機を使用して明渠を施工した際に、明渠も不均平となり、明渠内に水が滞る原因となります。特に排水口に対して逆勾配になっている場合は、排水効率が著しく悪化するので注意が必要です。水稻栽培期間の湛水時に、水深の違いや、田面が水面からでている場所を確認しておきましょう。

問題あり

ほ場を均平にしましょう

トラクターダンプを用いることで、簡易にほ場の均平化が可能です。また、復田時に支障が無い範囲での傾斜均平も表面排水の促進に効果的です。詳しくは下記のマニュアル・手引きを参照して下さい（農業試験場にお問い合わせ下さい）。

問題なし



①トラクターダンプを用いた簡易均平・簡易傾斜均平

⇒『簡易均平作業マニュアル』

※土工計算の計算様式についてもExcelシートで提供可能です。



②傾斜均平

⇒『水田傾斜均平のための手引き』

均平化完了

額縁明渠を掘りましょう

明渠は品目にもよりますが最低でも20cm以上の深さでの施工します。溝掘り機を使用する場合は、掘り始めが浅くなることから、スコップ等での調整が必要です。礫が多く、溝掘り機が使えない場合はバックホーを用いて明渠を掘ります。またほ場のサイズが大きい場合や土壌の透水性が悪い場合は、ほ場内にも明渠を施工する必要があります。



崩れた土は取り除く



確実に排水口につなぐ



礫が多い場合はバックホーで掘ると、深くしっかりした明渠が掘れます

【明渠の再生について】

前年（前作）の明渠が残っている場合は、小型管理機を使えば、明渠の再生と除草を同時に行え効率的です。



再生前

再生後

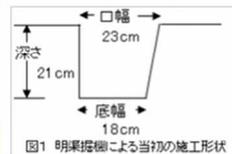


図1 明渠掘機による当初の施工形状

区名	深さ(cm)			口幅(cm)		底幅(cm)	
	作業前	作業後	手直し後	作業前	作業後	作業前	作業後
管理機	18.8	19.2	19.6	26.0	26.3	18.2	20.1
手作業	17.9	18.3	—	26.8	26.8	18.3	18.0

Q5へ進んで下さい

Q5. 隣接水田や水路からの漏水はありますか？

水路から
あり

隙間が空いてしまった目地を補修し、水の浸入を防ぎましょう。



水路の目地はモルタルで補修可能

簡易補修でも大幅に漏水を軽減できます

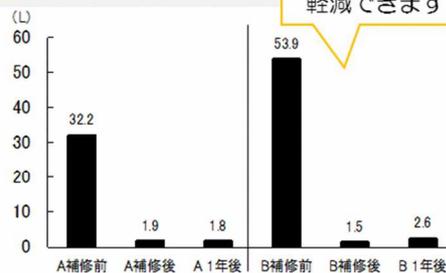


図1 補修後1年経過後の1時間当たりの減水量の比較

『簡易な水路目地補修作業の手引き』

※農業試験場HPから入手可能です
<https://www.pref.tottori.lg.jp/item/1190656.htm#itemid1190656>

取水口からの漏水も確認しましょう



補修前

補修後

取水口からの漏水も点検しましょう。漏水がある場合は補修を行います。補修方法は上記の『簡易な水路目地補修作業の手引き』を参照して下さい。

対応完了

隣接水田
からあり

畦塗りや畦シート（遮水シート）等で水の浸入を防ぎましょう。



防ぎきれない場合は…

漏水側の額縁明渠を深く掘り下げ、排水口に接続するか、額縁明渠の外側に深い明渠を掘り、排水口に接続しましょう。これにより、ほ場内への水の浸入をより強く防ぐことができます。また、地形に起因する湧水（山際からの湧水等）もこの方法で対応します。



バックホーを使うと深い明渠を掘れます

【日頃の管理により防げる漏水】

草により水路が詰まり漏水している



用水路周辺の草は定期的に取り除くようにしましょう。増水時にあふれ漏れる原因になります。

問題なし

Q6へ進んで下さい

Q6. 20mm程度の降雨後、ほ場の水たまりは1日以内に なくなりますか？

※水稲作直後の場合は水が溜まりやすいので耕耘後の状況で判断します。

なくなる

田面の滞水がなくても鋤床上に滞水している可能性がありますので観測用の穴を掘って滞水状況・水位の確認をしましょう。

滞水なし



地下浸透に問題なし。
診断終了です。

ある

耕盤により不透水層が形成されているか、地下水水位が非常に高い可能性があります。

併せて確認しておきたい項目



土壌硬度



還元層の位置

コンペネトロメーターで1.5MPa以上を示す深さ、および検土杖とジピリシル溶液により還元層の有無（深さ）を調査し、耕盤破碎や弾丸暗渠を施工する際の判断材料にしましょう。

診断続行

Q7. 田面から30cm以内に10cm以上の礫が多く埋まっていますか？礫層がありますか？

耕盤・心土破碎や弾丸暗渠の施工が必要ですが、これらの施工は土壌中の礫が多いと不可能です。礫が多いようであれば、表面排水のみでの対応となりますが、畝たてや溝切りを行い少しでも表面排水の効果を高めましょう。

ある

ない



明渠のみでの対策となりますが、畝たてが可能であれば実施しましょう



Q8へ進んで下さい

Q8. 強粘質な土壌ですか？

土壌に含まれる粘土含量は実施する対策にも関連します。粘土が多いと成形が容易であり、形状を維持しやすくなるため弾丸暗渠の施工に向いています。反対に粘土が少ないと崩れやすくなるため耕盤・心土破碎が選択肢となります。なお、現場判断の材料としては下表を参照して下さい。

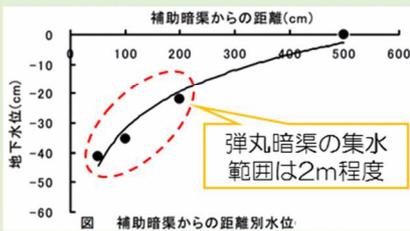
土性	判断の目安	粒径組成(%)			粘土成形	破碎効果範囲
		粘土	シルト	砂		
S(砂土)	ほとんど砂ばかりで、ねばり気を全く感じない	0~5	0~15	85~100	難 ▲	広 ▼
SL(砂壤土)	砂の感じが強くねばり気はわずかしか感じない	0~15	0~35	65~85		
L(壤土)	ある程度砂を感じねばり気もある	0~15	20~45	40~65		
SiL(シルト質壤土)	砂はあまり感じないがサラサラした小麦粉のような感触	0~15	45~100	0~55	易 ▲	狭 ▼
CL(埴壤土)	わずかに砂を感じるがかなりねばる	15~25	20~45	40~65		
LiC(軽埴土)	ほとんど砂を感じないでよくねばる	25~45	0~45	10~55		
HC(重埴土)	砂を感じないで非常によくねばる	45~100	0~55	0~55		

強粘質

目安：HC~LiC

明渠から弾丸暗渠を施工し表面排水を促進させます。白ネギのように土寄せを行う場合は、条間の土面低下を考慮して、施工深を設定します。また、浅く施工すると崩れやすいので注意が必要です。弾丸暗渠の集水範囲は片側2m程度までは有効と考えられますが、施工間隔が短い方が排水効果が高いので、ほ場の透水性に応じて2~5m間隔で施工しましょう。復田をするなら田植機の車輪がはまらないように、施工方向にも注意が必要です。

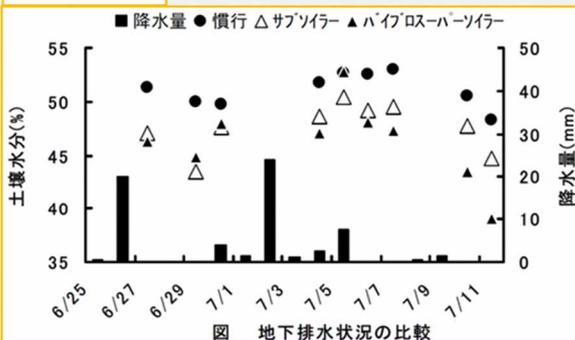
強粘質ではない



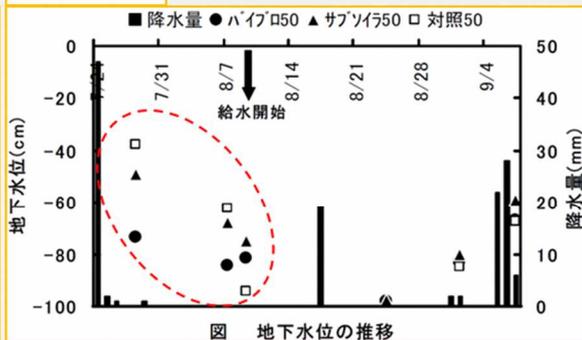
目安：CL~SL

幅広型心土破碎機により心土破碎を行います。弾丸暗渠と同じく明渠から施工します。施工部の排水改善効果は高いものの、施工部周辺からの集水・排水効果は小さいため、労力は増えますが隣接しての連続施工で排水効果が高めることも検討しましょう。

強粘質ほ場



砂壤質ほ場



粘土が多いほ場(左図)では、弾丸暗渠と心土破碎の効果は同程度であるが、粘土が少ないほ場(右図)では、心土破碎の方が排水効果が高い。

Q9へ進んで下さい

Q9. 暗渠は設置されていますか？

ある

ない

本暗渠が機能していない原因としては、①耕盤形成による透水性不良によりうまく排水できていない ②暗渠内部が詰まっている（暗渠洗浄が必要）が考えられます。耕盤破碎を実施しても改善されない場合や、地下水位が高い場合は後者が原因と考えられます。地下水位の判断目安として、落水後のほ場が乾いた頃の作土直下50cm以内にグライ層があると地下水位が高いと考えられます。

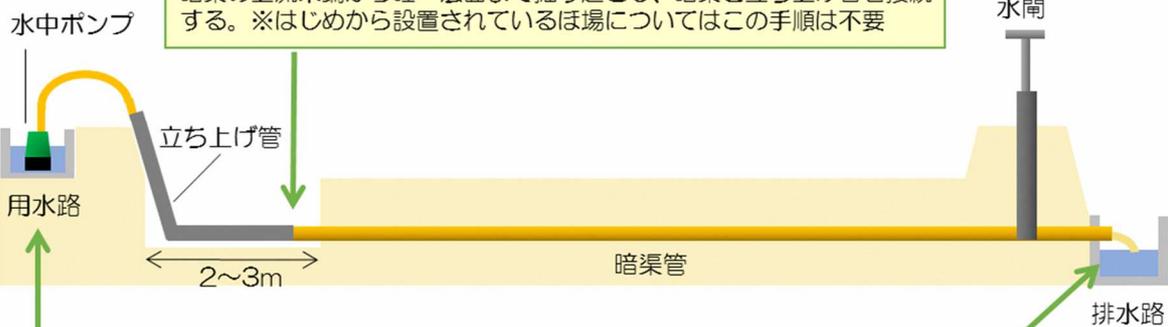
診断終了です

【暗渠洗浄の一例】

ステップ1：立ち上げ管の設置



暗渠の上流末端から畦・法面まで掘り起こし、暗渠と立ち上げ管を接続する。※はじめから設置されているほ場についてはこの手順は不要



ステップ2：暗渠内への注水



立ち上げ管にホースをつなげ、水閘を閉じて注水する。水閘がなければ暗渠末端に栓をして止水する。※止水することにより圧力がかかり、暗渠管の底に付着している水アカ等が流出する。

ステップ3：洗浄水の排水



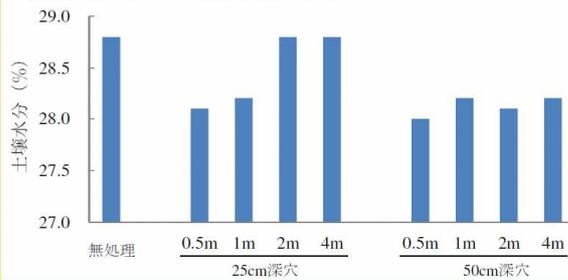
水閘を開けて排水し水の汚れ具合を確認。水が透き通ってきたら洗浄完了。

【地下排水を促進させる補助暗渠の施工】

Q8の表面排水を促進させるための弾丸暗渠とは別に、右図のように弾丸暗渠を施工することで、本暗渠を通じた地下排水を促進させる事が可能です。ただし、疎水材の材質は様々（籾殻、砂、礫等）であるため、施工前に確認が必要です。また、施工後に本暗渠の機能が認められない場合は、暗渠管の洗浄が必要と考えられます。



【簡易な局所排水対策】



局所的な排水不良については、携帯型の穴掘り器で条間に穴を開けることで、改善が見込めます。なお、50cm深の穴の場合、4m間隔までは効果が認められています（右図）。この対策の利点として、栽培期間中にも実施可能な事があげられます。

【掲載マニュアル・手引き一覧：入手方法】

- ・簡易均平作業マニュアルおよび土工計算様式：農業試験場問い合わせ
- ・水田傾斜均平のための手引き：農業試験場問い合わせ
- ・簡易な水路目地補修作業の手引き：農業試験場HP（下記URL）
<https://www.pref.tottori.lg.jp/item/1190656.htm#itemid1190656>

4 試験担当者

環境研究室	研究員	鶴田 博人
	主任研究員	香河 良行
	主任研究員	稲坂恵美子 ^{※1}
作物研究室	主任研究員	新居亜希子
	主任研究員	船原みどり ^{※2}
	研究員	日下 真紀 ^{※3}

※1 現 中部農林局東伯農業改良普及所

※2 現 農業振興監生産振興課

※3 現 東部農林事務所地域整備課

園芸試験場

ハウス秋冬出荷シンテッポウユリの夏期降温ハウス管理法

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

シンテッポウユリの秋冬出荷作型において、定植前の苗冷蔵処理によって抽台率が向上することが明らかとなっているが、定植後の気温が高く推移すると抽台率が低下することがわかってきている。そこで、本試験では定植後のハウス降温管理法について明らかにするため、遮光程度および簡易細霧処理が抽台および切り花品質に及ぼす影響について検討した。

(2) 情報・成果の要約

- 1) 定植後の日照時間が多く気温が高い年には、外張り 2 重遮光により 35℃以上遭遇時間が減少し、抽台率が向上する。
- 2) 定植後の日照時間が少なく気温が平年よりも低い年には、外張り 2 重遮光による抽台率向上効果があまりみられない。
- 3) 曇天時に外張り 2 重遮光でハウス内の照度が 1 週間以上連続して 15,000 lx を下回ると、抽台率が低下する。

2 試験成果の概要

- (1) 2018 年～2020 年の 3 年間、夏期のハウス降温管理法について試験を行った。処理区と栽培スケジュールを表 1、2 に示す。遮光処理は遮光率 40% のふあふあエース 40 を用いた。簡易細霧処理はネタフィルムジャパン (株) の「クールネットプロ」ノズルを用いた。
- (2) 年ごとに気象の特徴をみると、2018 年は定植から 8 月にかけて平年よりも気温が高く、日照時間が多かった。2019 年と 2020 年は定植から 7 月中旬にかけて平年よりも気温が低く、日照時間も少なかった (図 1、2)。
- (3) ハウス内の日中平均気温はいずれの年も処理区間で差が見られなかった (図 3)。
- (4) ハウス内の 35℃以上遭遇時間は、2018 年が他の年に比べて多かった。外張り 2 重遮光することにより、外張り 1 重遮光と比べて 35℃以上遭遇時間が減少した (図 4)。
- (5) ハウス内の日中平均照度は、外張り 2 重遮光にすると外張り 1 重遮光の 6 割程度の照度になった。2018 年と 2019 年は天気に応じて寒冷紗を除去していたため、外張り 2 重遮光区の照度が 1 週間以上連続して 15,000 lx 以下になることはなかったが、2020 年は天気に応じて寒冷紗を除去しなかったため、曇天日が続いた 7 月 1～3 半旬と 5～6 半旬に約 10,000 lx になった (図 5)。
- (6) 抽台率は、定植後の気温が平年よりも高かった 2018 年は外張り 2 重遮光区が最

も高く、外張り1重遮光区が最も低かったのに対し、定植後の気温が平年よりも低く、日照時間も少なかった2019年は処理区間で大きな差がなかった。定植後の気象が2019年と同様だった2020年は、曇天日が続く日も寒冷紗を2重で被覆し続けたため、外張り1重遮光区と比べて抽台率が30%程度低くなった(図6)。

- (7) 気温と照度、抽台率の関係から、定植後の気温が平年より高く推移する年は外張り2重遮光により抽台率が向上するが、定植後の気温が平年よりも低く推移する年は外張り2重遮光による抽台率向上効果はあまりなく、1週間以上曇天日が続く場合に外張り2重遮光すると抽台率が低下すると考えられた。
- (8) 切り花品質は、2018年は処理区間で大きな差はみられなかった。2019年は、外張り1重遮光区+簡易細霧区の葉色が他区と比べて薄く、外張り2重遮光区の茎径が他区と比べて細かった(表3)。2020年は、抽台率の低かった外張り2重遮光区が他区と比べて切花長が長く、切花重も重く、さらに茎径も太くなり、ボリュームがあった。

表1 処理区

処理区	2018年		2019年		2020年	
	処理期間	遮光	処理期間	遮光	処理期間	遮光
外張り2重遮光	定植 ~8月22日	外張り2重 ^{注)}	定植 ~8月20日	外張り2重 ^{注)}	定植 ~9月4日	外張り2重
外張り1重遮光		外張り1重		外張り1重 ^{注)}		外張り1重
外張り1重遮光+簡易細霧		外張り1重		外張り1重 ^{注)}		外張り1重
外張り1重遮光+内張り1重遮光		外張り1重 +内張り1重	—	—	—	—

注) 週間天気予報最高気温 30℃以下が1週間連続時に1枚除去

寒冷紗の遮光率は40%

表2 栽培スケジュール

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
2018年		3/29 播種	4/11 種子冷蔵		6/17	7/1 苗冷蔵	定植	遮光・簡易細霧処理	8/22
2019年		3/30 播種	4/12 種子冷蔵		6/14	6/28 苗冷蔵	定植	遮光・簡易細霧処理	8/20
2020年		3/30 播種	4/12 種子冷蔵		6/17	6/30 苗冷蔵	定植	遮光・簡易細霧処理	9/4

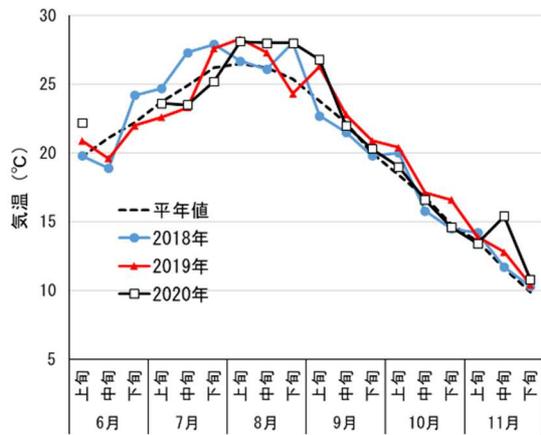


図1 年ごとの平均気温の推移
(観測地点：倉吉アメダス)

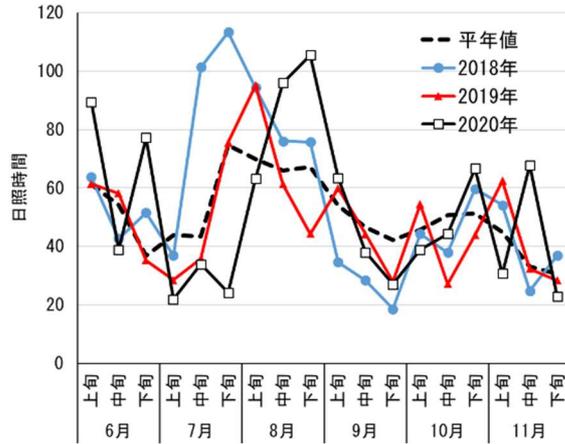


図2 年ごとの旬日照時間の推移
(観測地点：倉吉アメダス)

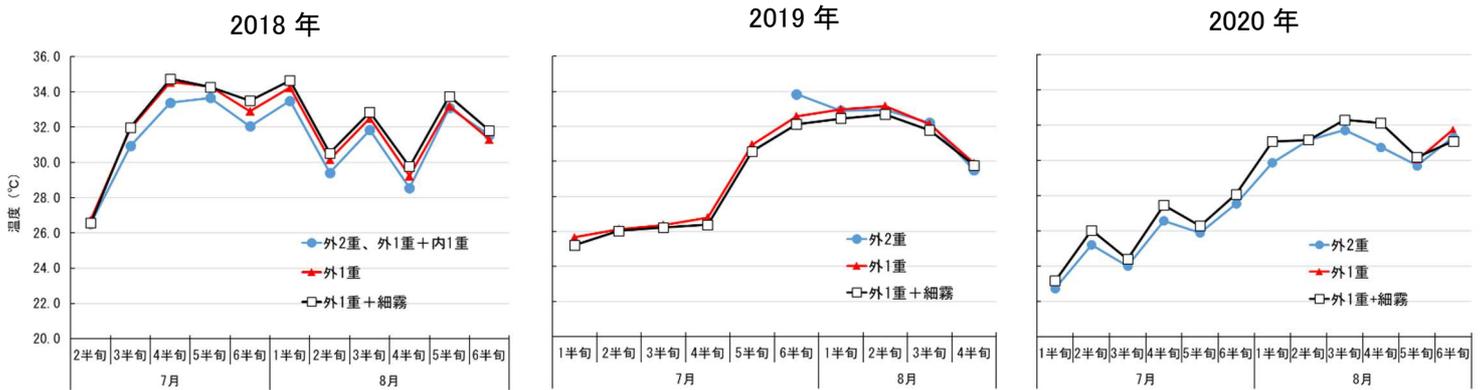


図3 ハウス日中平均気温の推移
注) 日中(6~18時)の平均温度

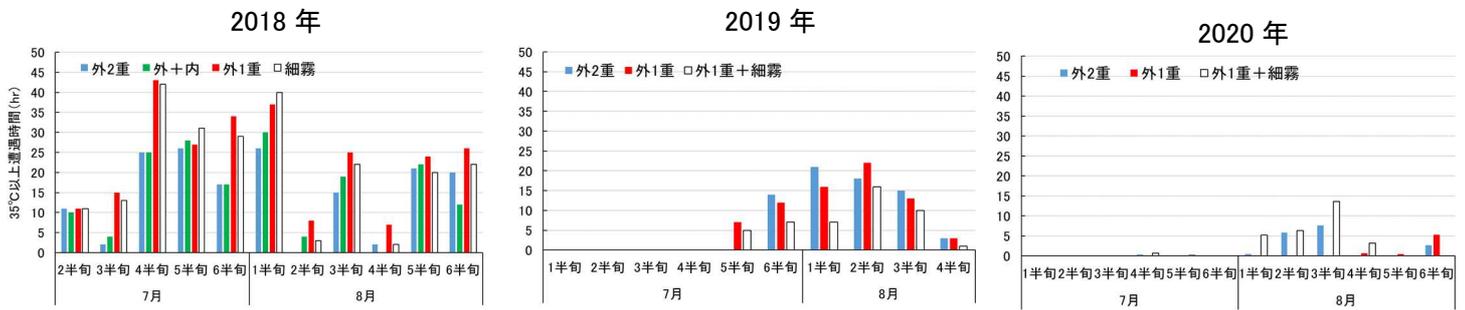


図4 35°C以上遭遇時間の推移

注) 2019年「外2重」の7月1~5半旬、2020年「外1重」の7月1半旬~8月4半旬の温度データ欠損

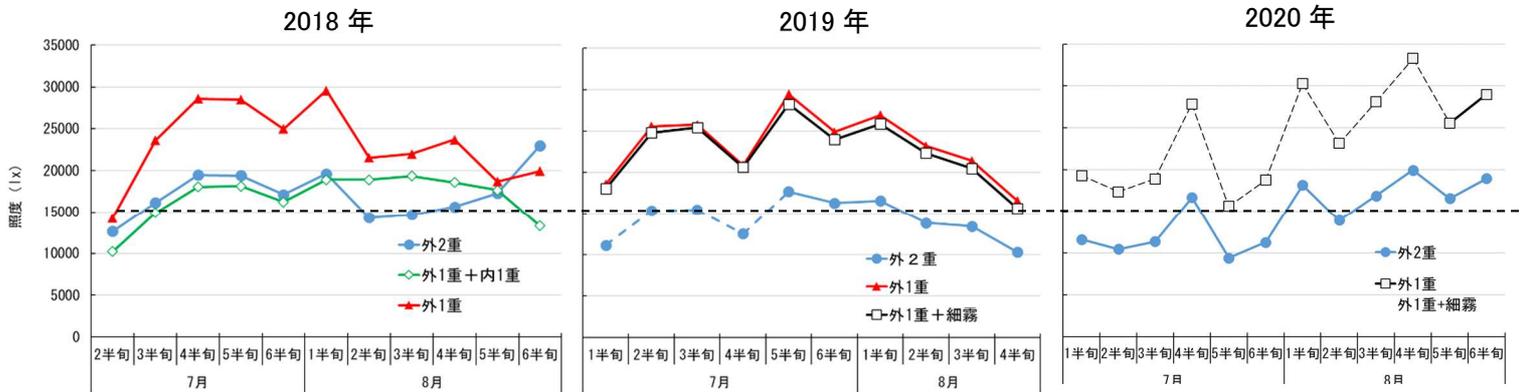


図5 ハウス照度の推移

注) 2019年、2020年の点線は推定値

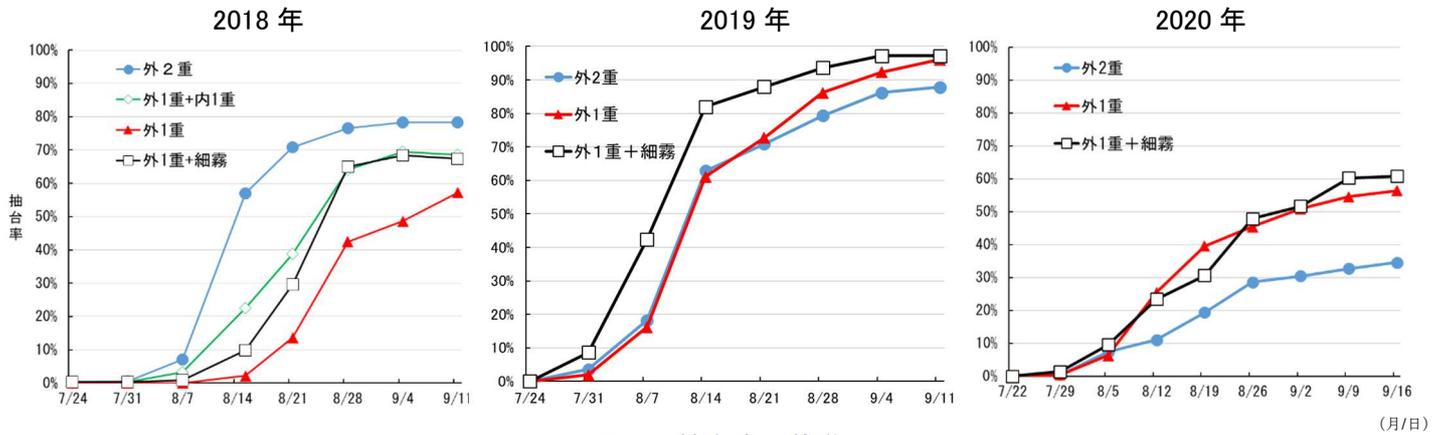


図6 抽台率の推移

表3 遮光および細霧処理が切り花品質に及ぼす影響

	処理区	平均採花日	切花重 (g)	切花長 (cm)	輪数 (輪)	茎径 (mm)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	ブラスティング発生株率	採花率
2018年	外2重	10月17日	152.4	150.7	2.3	7.7	55.7	56.0	29%	66%
	外1重+内1重	10月23日	154.2	150.3	2.4	7.5	55.9	55.1	26%	59%
	外1重	11月7日	148.5	150.4	2.3	7.2	51.3	54.5	20%	54%
	外1重+細霧	10月27日	144.9	147.9	2.3	7.5	51.7	53.5	31%	59%
2019年	外2重	10月10日	126.5	130.0	2.2	6.8	44.8	61.3	20%	78%
	外1重	10月11日	134.7	135.6	2.3	7.6	47.6	59.5	30%	75%
	外1重+細霧	10月5日	129.8	133.4	2.1	7.7	44.8	56.9	37%	80%
2020年	外2重	10月17日	149.3	130.1	2.5	8.7	46.1	65.6	17%	22%
	外1重	10月11日	125.6	120.2	2.4	8.0	41.0	62.3	21%	49%
	外1重+細霧	10月16日	114.2	116.9	2.3	7.9	43.1	65.5	38%	52%

注) 採花率：採花本数/定植株数

ブラスティング発生株率：ブラスティング発生株数/採花本数

3 利用上の留意点

- (1) 遮光率が 40%よりも高い寒冷紗を用いて外張り 2重遮光をする場合、曇天日が 1週間以上続くときに本試験結果以上の抽台率低下が考えられるため、より天気
に注意して寒冷紗を除去する必要がある。

4 試験担当者

花き研究室	研究員	田邊	雄太
	室長	岸本	真幸 ^{※1}
	主任研究員	池田	規子 ^{※2}

※1 現 農業振興監農業大学校 教授

※2 現 東伯農業改良普及所 副主幹